

石油備蓄のあり方検討会（第１回）
議事要旨

○日時 令和５年１１月８日（水）１３：００～１４：３０

○場所 経済産業省別館２階２３８会議室

○議題

- （１）石油備蓄の現状について（事務局からの資料説明）
- （２）自由討議

○議事概要

- ・冒頭に開会挨拶。その後、委員、オブザーバーの紹介。
- ・事務局（資源エネルギー庁）から、資料３～４について説明。
- ・その後、自由討議の形で意見交換。委員、オブザーバーからの主な発言は次の通り。
 - 石油備蓄の大義・目的・戦略について改めて整理するとともに、どのような考え方で現在の備蓄日数を保有しているのか整理が必要では。
 - 地政学的なリスクや供給途絶のリスクに関する環境認識と国内における石油需要を踏まえた上で、石油備蓄の役割を考える必要があるのでは。その際は、燃料としての機動性や備蓄可能性も踏まえた上で議論をする必要があるのでは。
 - 備蓄日数の議論をする際には、他国との備蓄日数の比較もしつつ、基地の機動性やコスト効率の観点も踏まえた議論も必要ではないか。
 - 国備基地を操業管理するにあたっては、急激な予算減は苦しい。安定的に予算を確保できれば中長期の修繕計画もたてやすくなるのでは。
 - 日本の石油備蓄が国際的にどのような役割を担っていくかについても考える必要があるのでは。
 - 供給途絶が発生した際に国家備蓄を機動的に使用できるようにするため、「油種入替」については今後も継続する必要があるのでは。また、機動性の高い基地については油種入替を優先的に進めるという考え方もあるのでは。